

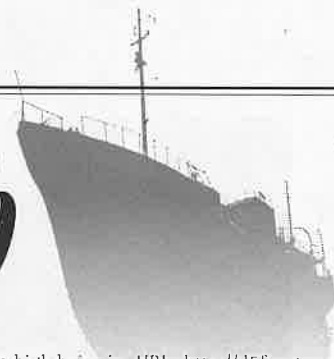
2005.09.01  
No.322

(8・9月合併号)

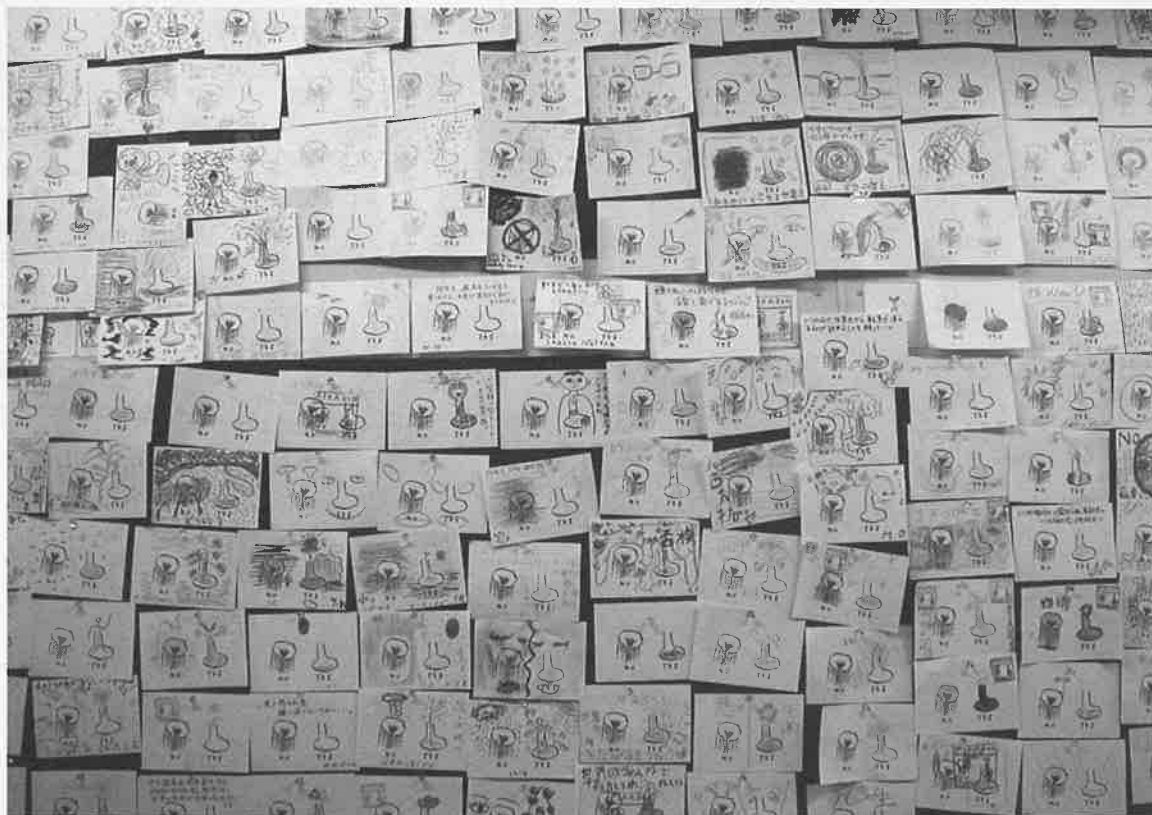
発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL: http://d5f.org

# 福竜丸だより



PIKADON展に寄せられた来館者が描いたカラフルな絵のメッセージ、平和への願いがあふれている



## 戦後・被爆六〇年 秋の企画、「手紙―託された心」特別展開催

第五福竜丸平和協会は、久

保山愛吉さんの命日、九月二三日より久保山さんや家族に寄せられた「手紙」の特別展をおこないます。会期は十二月一日迄。また、この日は、平和を語るつどい、久保山忌句会、マグロ塚を作る会、東京原水協などによる催しが行われます。

ロートブラット博士から

メッセージ

平和協会は七月九日、学生会館において講演会「ラッセル・アインシュタイン宣言五〇年と核兵器問題―被爆六〇年に考える」を開催しました。

は2〜4面に掲載)

小沼さんは講演の最後に、「宣言」の署名者で唯一存命するジョセフ・ロートブラット博士へのメッセージを会参加者一同として送ることを提案しました。

これを受け平和協会の川崎昭一郎会長は、以下のようなメッセージを送りました。

― 記念講演のなかで小沼教授は、あなたによる水爆のメカニズムの発見、ラッセルとの共同作業、あなたの生涯にわたるパグウォッシュ会議への献身について話されました。会の出席者と私は、「宣言」を実現させたあなたの偉大な貢献に対してお礼を申し上げます。ありがとうございます(大要) ―。

七月十八日、博士より返信が届き、「ラッセル・アインシュタイン宣言五〇周年に際しての協会のとりくみとお心遣いに深く感謝申し上げます」とありました。

講師には小沼通二さん(慶應大学名誉教授、世界平和アピール七人委員会事務局長、元日本物理学会会長)、コメンテーターに岩垂弘さん(ジャーナリスト)、高橋博子さん(広島市立大学平和研究所研究員)を迎え、七〇人が参加しました。(講演の内容

## 記念講演

ラッセル・アインシュタイン宣言50年と核兵器問題

被爆六〇年の今 宣言を考える

小沼通二

五〇年前の七月九日  
ラッセル・アインシュタイン宣言は、五〇年前の七月九日に、ロンドンで発表されました。

左の写真は、ロンドンのカクストンホールの一層大きな会議室での発表の様です。この朝、ラッセルはアメリカ、ソビエト、イギリス、中国の政府首脳に宣言文を送ってから会見に臨みました。



記者会見するラッセル卿

宣言に署名したのはラッセル、アインシュタインを含めて一人です。日本の最初のノーベル賞受賞者湯川秀樹博士も含まれています。一番若い署名者がロートブラットでした。彼は、一九九五年にバグウォッシュ会議とともにノーベル平和賞を受けています。いま、九六歳です。

この記者会見には外国特派員も含めて非常に多くの記者が集まりました。ラッセルから宣言を出すに至った経過と中身の短い説明があった後、質問が三七も続きました。

## 原爆から水爆へ

広島と長崎への原爆投下に對して、ラッセルもアインシュタインも直後から非常に危機感を持っていました。

アインシュタインは、原爆製造のきっかけを作った人です。ユダヤ人のアインシュタ

インは、ヒトラーのドイツにいられなくなりアメリカに移りました。

一九三九年、第二次世界大戦が始まる直前に、ドイツで、原子核が割れて別の原子核になり、そのときに大きなエネルギーが発生することが発見されました。ドイツの占領下にあったチェコからのウランの輸出が禁止される事態が起きました。

米国に亡命した物理学者のシラードは、ドイツによる原子力兵器の開発を心配し、米國が同様な兵器を持てば、報復を恐れてドイツも使えなくなることを考えました。そこでアインシュタインに頼んで、ルーズベルト大統領への手紙を書いて貰いました。

米政府はすぐには反応しませんでした。結局はマンハッタン計画が始まります。アインシュタインは、原爆製造の最初のボタンを押したといえます。

しかしアインシュタインは、それから後は原爆製造は一切関わっていません。それどころか、原爆完成が近づいた一九四五年三月に、(使

用中止を求める) 科学者の声を直接聴いてほしいという手紙を書いています。ところが当の大統領が急死し、次の大統領トルーマンが関心を示すことはありませんでした。

一方ラッセルは、上院議員でした。議会で同年一月に原子力の危険性という演説をしています。そのなかで、将来、原爆よりも破壊力の大きな兵器が作られるかもしれないとまで触れています。

## ビキニ水爆実験

さて、一九五四年三月一日のビキニ水爆は、予想を超えた爆発力で、危険区域の外にいた第五福竜丸や周辺の島民などを被爆させ、広範な被害を生み出しました。

第五福竜丸は、急いで日本に帰ってきました。すでに急性症状がでていました。三月一日に帰港、一六日に報道がでて世界中のニュースになりました。

ラッセルとロートブラットは、そのすぐ後の四月にイギリスのBBCの放送でビキニ水爆についての企画で初めて顔をあわせます。ラッセル

は一九五〇年にノーベル文学賞を受けた著名人、ロートブラットは英国の原子科学者協会の副会長でした。この機会に二人の間の信頼関係が生まれました。

## 謎のウラン237

一方日本では、第五福竜丸の乗組員の症状がどういう放射線で起こっているのか、治療方法を突き止めるために、東大では二四時間体制で死の灰の成分分析が始まりました。大阪市立大学や静岡大学、京都大学などでも研究を始めています。一月足らずの内につきつき成果がみえてきました。

そのなかに、ウラン<sup>235</sup>と<sup>238</sup>という原爆にはないものがたくさんでてきたのです。<sup>238</sup>が天然ウランで<sup>235</sup>は原爆の材料となります。五月に日本の分析化学の研究者があつまつた報告検討会で、東大から<sup>235</sup>と思われるものが検出されたという報告がありました。

しかし後になって、東大の木村健二郎博士は、<sup>237</sup>が出てくる理由がわからないの(3面につづく)

(2面からつづく)  
で、自信が持てなかつたといっています。

### 水爆の秘密解明

七月に、大阪市大の西脇安博士がイギリスで開かれたキリスト教平和大会に出席した折りに、大学と研究所を訪ね、「ビキニの灰」について講演し、<sup>①</sup>の存在の可能性についてふれました。それを聞いたロートブラットは、マンハッタン計画に参加した科学者でしたから、一〇月までに<sup>②</sup>が含まれる原因を突き止めたのです。いわゆる水爆の仕組みを解き明かしたわけです。

まず普通の火薬で原爆を爆発させます。その熱と圧力で水素の核融合を起こさせ、さらに、発生した早い中性子で、元来核分裂連鎖反応が起きない天然ウランを分裂させて破壊力、放射能を増すという兵器でした。

ロートブラットは、すぐに論文を書きますが、イギリスの原子力委員会は発表にストップをかけました。理由は、ドイツ生まれのイギリスの物

理学者が、原爆の秘密をソ連に漏らし逮捕される事件があった直後だったので、アメリカが極秘にしている水爆の構造をイギリスで公表すれば英米関係にとってまずいと判断したわけです。

ロートブラットは、アメリカの友人やラッセルに話しました。ラッセルは、原爆をはるかに上回る兵器の実験が実際に起こなわれたことに衝撃を受けます。

一月二三日、ラッセルはBBCのラジオ放送で、現代の核兵器の危険性を語り、絶対使ってはいけないのだが、禁止するだけでは充分ではない。戦争が起これば、必ず作るだろう。この破壊力を思えば、国際間の紛争は戦争でない方法で解決するしかない、とまで言っています。

ここにラッセル・アインシュタイン宣言の原型を見ることが出来ます。

### アインシュタインの死

ラッセルは、一九五五年二月一日にアインシュタインに相談をもちかけました。世の中に影響力のある、米ソそ

れぞれから信望のある科学者に参加して貰い、核兵器の恐ろしさを警告し、国際紛争は戦争以外の手段で解決しようと呼びかける宣言を出したいというのです。

アインシュタインは、直ちにこれに応じ五日後に返事をしました。さらに、こうした問題は、デンマークの科学者ニールス・ボーアに相談するのがよからうということ、アインシュタインはボーアにも手紙を書いていきます。

ラッセルは、四月五日に宣言の素案をつけて一七人の科学者に署名を求めて送付しました。アインシュタインは、四月一日に賛同の返事を書いて投函しました。ところが翌一二日に激痛に襲われ、一三日に大動脈瘤破裂をおこします。そして四月一日に亡くなってしまふ。この経過を見ると本当に紙一重の差でアインシュタインの署名が得られたことがわかります。

ラッセルは、ローマからパリへの移動の飛行機のなかでアインシュタインの死を知って、目の前が真っ暗になり、

この計画は失敗したと思ったと回想しています。

ところがパリに着いたラッセルは、ホテルでロンドンから転送されたアインシュタインの手紙を受け取るわけです。

湯川博士は、四月一九日に、アインシュタインへの追悼を込めながら署名の承諾の手紙をラッセルに送ります。署名者が次第に集まり、いよいよ七月九日に記者会見することになりました。会見の通知を出すとは非常に反響が大きい、そこで、大きい会場に変更し、技術的質問が出たときのために、急ぎよロートブラットに司会を頼むことにしました。

### 公になった機密

第五福竜丸被災の年の一月一日に米原子力委員会七人と日本学術会議の一五人による日米合同放射線会議がおこなわれます。招待者だけの非公開の会です。放射線被爆だけでなく、気象、海洋の問題、魚の問題、いろいろな分野の専門家を集めました。

この会議に京都大学の清水栄博士が参加しています。京

大は、死の灰の分析は少し出遅れました。静岡大学から灰を分けてもらって、一研究室ではなく大学のいろいろな分野の人たちが共同で分析にあたります。そのなかでウラン<sup>③</sup>もはつきり検出しています。しかし非公開会議に先に報告したら、それ以外に発表できなくなってしまうと考え、京大の化学研究所の機関誌の特集号として、直前に広く公表します。

この特集号は、国際的に反響を広げ、アメリカやヨーロッパに知らされました。全米各地の新聞にも大きく報じられます。日本の若い科学者が水爆の秘密について証拠を出したと。そこには米国の科学者の談話もついていました。

ロートブラットは、ここまですっきりしたのだから自分の論文も出そうということ、イギリスの原子力委員会の許可を得て、三月末に英国の原子科学者ジャーナルに載せました。米国のブリテン・オブ・ジ・アトミックサイエンスティストにも、その論文が

(4面につづく)

(3面からつづく)

転載され、水爆の構造が知られるにいたったのでした。

### 第五福竜丸の果たした役割

第五福竜丸の被災は、乗組員には本当に不幸な出来事でしたが、日本での分析やロートブラットの解析によって水爆の恐ろしさが世界に伝わるきっかけをつくりました。

ラッセル・アインシュタイン宣言が作られ、原水爆禁止運動にも大きな役割を果たし、アメリカが秘中の秘にしていた水爆について公然と議論できるようになったという点でも大きな意義があります。

ビキニ事件の頃は、世界中、特に北半球で、米ソ英の核実験の影響で放射能の雨が



各地に降っていました。また、空気中の放射能は、核兵器実験のたびに増加することが観測されました。まさに地球規模の環境汚染でした。

そしてもし第三次世界大戦が始まれば、本当に人類は絶滅するということが、現実の課題となりました。

### 紛争は平和的に解決を

さて、宣言の全文は、いろいろの書物にも載っていますが、たとえば、以下のホームページで見えることもできます。まず世界の指導的学者が国や立場の違いを超えて署名したということに意義があります。 < [http://www.pugwash.com/](http://www.pugwashjapan.jp/http://www.pugwash.com/) >

水爆戦争の恐ろしさを一番よく知る学者が、核兵器の危険性を説き、人類が核兵器が作れるという知識を知ってしまった以上、核兵器廃絶だけでは解決にならない、人類が絶滅するか、戦争を根絶するかという問題に直面していると訴えたのです。

そして、具体的提案として世界中の科学者は会議を開いて、

将来の世界戦争では必ず核兵器が使われる、もはや戦争により国家目的を達成する時代ではないのだということ、世界の政府によびかける、あらゆる紛争は平和的手段で解決する方策を考えるようにと述べたのです。

この宣言を受けて二年後の一九五七年にカナダのパグウォッシュという村に世界中の指導的な科学者二三人がつどい会議をひらきました。激しい東西対立の時代に、国や体制の違いを超えて、科学者個人として参加し、議論をつくすことに成功したので、継続することになりました。

以来、パグウォッシュ会議は、国連や各国政府にさまざまな提言をしています。核不拡散条約や大気圏核実験禁止条約、非核兵器地帯など多くの提案がこの会議から生まれました。

### 核兵器と戦争の廃絶は 人類的課題

さて、こんにちの核兵器問題に触れましょう。情報公開で入手した米国の資料によると、冷戦の激しい頃には、ヨ

ロッパには七千とか八千の米国の核兵器の配備があり、ボタン一つで飛び出せる状態になっていました。現在国外に核兵器を配備している国は世界中で一つだけです。

今は数が減って五〇〇発くらいになっています。しかし、減ってよかったという話してはなりません。五〇〇もの目標を今も決めていて、いつでも発射できるという状況にあるということですよ。

アジアについては公表されていませんが、ヨーロッパ以上と考えられます。米国にとって、中国、北朝鮮問題などがありますから……。つまり冷戦が終わって核問題は一段落という話しではありません。

間違いや事故の危険は常にあるわけで、「ボタン一つ」ということだけは、とりあえず辞めなければなりません。

核兵器の破壊力ですが、第二次世界大戦中に世界中で使われた爆弾、原爆も含めてその総計は、高性能の「H」火薬換算で三〇〇万トン（三メガトン）になります。これと比べて八〇年代初めに世界

中の核兵器の爆発力の総計は一万八千メガトン、六千倍です。第二次世界大戦では、東京も、ヒロシマもロンドンもモスクワもパリも破壊されたのに。

### 核廃絶への希望をもって

湯川博士は、かねて冷戦のさなかに次のように書いています。もしも明日が昨日と今日の単なる延長線上にあるのなら人類の未来は暗い。過去と現在の中にはまだ表れていない可能性が潜在しているという信念を持たなければならぬ。

絶望しないで、チャンスがめぐってきたら常にそれを掴み取れるように準備をしておこうという呼びかけです。これを空想的という人がありますが、先生は動じませんでした。

五月の核不拡散条約の再検討会議では、核軍縮についても不拡散についても、成果がえられず残念でした。しかし、原則を曲げた妥協的な合意が作られたらどうだったろうか考えてみると、これから

(5面下につづく)